

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
R404	教職実践演習	4年	演習	2	寺内孝夫
<b>授業概要</b> 教職課程の学修の集大成科目である。科目の履修を通して、教職に就く上で、自己にとって何が課題であるかを的確に分析し、不足している知識、技能、態度等を補い、その定着をはかる。そのため、現在の教育現場に即応した諸課題について、グループ討論や演習により、体験的に教育実践力を身に付けることをねらいとする。					
<b>到達目標(学習の成果)</b> 1 教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持ち、子どもとともに成長しようとする姿勢が身に付いている。 2 職業人としての社会性や対人関係能力の基本を身に付け、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。 3 子どもとの間に信頼関係を築くための生徒理解や学級経営等に関する基礎的力量を身に付けている。 4 教科内容を理解し、学習指導の関する基礎的力量を身に付けている。					
<b>授業計画</b>					
回	表題	学修内容			
1	教職課程の学修の成果と課題	教職概論から教育実習に至る一連の教職課程での学修の振り返り、各自にとっての成果と課題を分析し、本科目履修のポイントを把握する。(体験発表とグループ討議) 「私が研鑽を深めたい教員としての職業能力は何か？」			
2	教職の意義と教員の役割	教員としての使命感や教育的愛情について、具体例を踏まえて体験的に学ぶ。(ロールプレイングとグループ討議) 「毎日の学校生活がつまらない」と訴える生徒にどう向き合うか？」			
3	学校組織と新任教師の職能形成	新任教師は、基本的な職業能力をどのように高めていったらよいのか、具体例を踏まえて体験的に学ぶ。(ロールプレイングとグループ討議) 「先輩教師に、“この単元の授業はどう教えたらよいのか”と聞いても良いものか？」			
4	保護者との連携	保護者との連携が重視される中、保護者からの様々な要求・要望への基本的な対応方針・対応方法について体験的に学ぶ。(ロールプレイングと講義) 「どうしたら成績があがるのか」と訴える母親に、どのように面談するか？」			
5	関係機関・地域との連携	関係機関・地域との連携が重視される中、様々な要求・要望への基本的な対応方針・対応方法について体験的に学ぶ。(ロールプレイングと講義) 「商工会主催盆踊りを盛り上げるため、中学生にも是非参加してほしい」との地域の要請にどう対応するか？」			
6	学級経営案をつくる(1)	学級担任が理想とする「学級づくり」を進めるためには、どのような点に配慮することが大切であるか、事例的に検討する。(講義とグループ討論) 「あなたにとって、理想的な“学級”とはどのような集団であるのか？」			
7	学級経営案をつくる(2)	学級経営案の作成を通して、日本の学校教育の特色でもあり、課題でもある特別活動の教育的意義について考察する。(実習と発表) 「居がいのある学級づくり」をどのように進めたらよいか？」			
8	特別活動案をつくる(1)安全管理	校外学習時の安全管理を進めるためには、どのような点に配慮することが大切であるか、事例的に検討する。(講義とグループ討論) 「安全で充実した“修学旅行”をどのように立案したらよいか？」			
9	特別活動案をつくる(2)校外学習	校外学習指導案の作成を通して、幅広い観点から学校教育を見通し、その意義について改めて考察する。(実習と発表) 「“職場体験学習”を効果的に行うためには、どんな点に留意したらよいか？」			
10	生徒とともに学ぶ(1)生徒指導	いじめや不登校等に対する生徒指導の基礎基本を身に付ける。(事例研究) 「部活の先輩からいじめられるので、学校に行きたくない」との生徒の訴えに担任としてどう向き合ったらよいか？」			

11	生徒ともに学ぶ(2)特別支援教育	特別支援が必要な生徒への対応の基礎基本を身に付ける。(事例研究) 「父親から、“子どもがアスペルガー症候群なので、配慮してほしい”との要望が寄せられたが、どう対応したらよいだろうか？」
12	授業をつくる(1)学習形態	学習形態に工夫した学習指導案づくりを通して、学習指導の方法的原理の基礎を実践的に考察する。(実習と発表) 「江戸時代の政治システムの特徴について“グループ学習”で、どのように学ばせたらよいか？」
13	授業をつくる(2)教材・教具	教材・教具に工夫した学習指導案づくりを通して、学習指導の方法的原理の基礎を実践的に考察する。(実習と発表) 「グーグルアースを活用した“地理学習”をどのように構成したらよいか？」
14	授業をつくる(3)評価問題	評価問題づくりを通して、学習指導の方法的原理の基礎を実践的に考察する。 (実習と発表) 「民主主義社会に生きる”をテーマにした学習の成果を、どのように評価したらよいか？」
15	教職に関する資質・能力	教職実践演習の総括として、各自の資質・能力を確認し、それぞれの課題を整理する。(グループ討論と総括発表) 「教職実践演習を学んでどんな成果が得られたか。また、今後のキャリア形成の中で、どんな点をより一層学んでいったらよいか？」
<b>準備学修(授業外の自己学修)</b> 1 各回の演習内容に沿って、1年次からの教職課程での学修を振り返り、各自の課題を整理しておくこと。 2 各回の演習テーマについて、各自の課題解決のための対応策を軸に自分なりの考え方を整理したうえで演習に臨むこと。		
<b>成績評価の方法・基準(%表記)</b> レポート 50%(50点満点 専門用語を使用し、根拠を示しながら論理的な文でもって解答すること。各自の意見を表明する際には、感想でなく、論理的に説明すること。) 発表 30%(ABC3段階評価 ) 出席・受講態度 20%(積極的受講-授業への集中、良好な参加態度-を基準とする。)		
<b>教科書</b> 使用しない。毎回、出席確認も兼ねて「ワークシート」を配付する。  <b>参考書等</b> 教材として、次の資料を各自準備すること。 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版 (2009年 175円) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版 (2011年 336円) 中学校教科書『新編 新しい社会 地理』東京書籍 (762円) 中学校教科書『新編 新しい社会 歴史』東京書籍 ( // ) 中学校教科書『新編 新しい社会 公民』東京書籍 ( // )		
<b>履修上の注意・学修支援</b> 1 出席確認をスムーズに行うため、指定された座席に着席する。 2 遅刻・早退等不在時間計10分以上は、受講時間確保上、出席したとは認められない。 3 全人教育及びキャリア教育の観点から、講義に際しては礼儀とけじめを重視し、講義の開始時・終了時には起立の上、受講者相互の挨拶を励行すること。 4 望ましい受講環境の維持のため、私語は厳に慎むこと。  受講上の疑問や講義内容に関する質問がある場合は、講義前後に問い合わせると共に、オフィスアワーを積極的に活用すること。		